

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	0570112201		
法人名	株式会社 秋田介護支援センター		
事業所名	秋田ひまわりの家 グループホーム		
所在地	秋田県秋田市下北手桜字新桜谷地85番地		
自己評価作成日	令和6年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内
訪問調査日	令和6年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームの理念「笑顔と元気があれば何でもできる。」を中心に、利用者様と職員共に笑顔を引き出し生活しております。 ・2階がグループホームで、1階に併設しているデイサービスの方々と交流し、馴染みの関係を築いております。(一緒にボランティア様の見学等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

受動的な利用者の皆様に対して職員が「笑顔と元気」を意識したコミュニケーションを図り、利用者の笑顔を引き出している。 また、併設しているデイサービスの利用者との交流を通じて地域とのつながりやなじみの関係性の構築に努めている。 避難訓練では隣接する学校の協力を得て避難場所を確保するなど、利用者の安全確保に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフミーティングで理念の確認を行っています。日々の出来事や、様子を職員同士で確認し、入居者様の気持ちを理解出来るように努力しております。	事業所の理念は職員間で意見交換をおこない作成された。事業所の入口や職員のカウンター内に掲示され、理念を意識した介護サービスが展開されている。	理念は事業所における介護サービスの根本的な考えや行動指針となるものであるため、パンフレットやホームページに掲載することで事業所に対する理解が深まって行くと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同施設のデイサービスの利用者様との交流を行ったり、町内会の清掃行事や、明桜高校様のグラウンドをお借りして避難訓練を行ったりしております。	町内会に加入し行事(クリーンアップ)に参加している。また、避難訓練時の避難場所についても隣接する学校の協力が得られて実施している。併設しているデイサービスの利用者との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じ、地域の民生委員、社会福祉協議会、家族の方へ制度や対応の説明を行い、理解を深めて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や、身体拘束防止、防災、ヒヤリハット、事故報告についての報告を行い、話し合いをし、今後の施設運営の助言を頂いている。	2か月に1度運営推進会議が開かれていることを確認した。行政機関や町内会長、利用者家族との意見交換が行われ、各種行事やケアに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等があれば、連絡や訪問し、改善点を確認しております。	情報入手は行政のホームページやメール、郵送物であり、疑問点等については関係機関への訪問や質問票を通じて問い合わせをして解決している。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外の研修に参加し、それを元に社内での全体勉強会を行い、全体の職員の理解を深められるようにしております。参加出来なかった職員へは資料配布し周知しております。	運営規程第11条に身体拘束、第12条に虐待防止に関して記載されている。年間研修計画にこれらの研修項目があり、実施されている。長寿福祉課の「高齢者虐待防止」に関する出前講座を受講している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度、成年後見制度についての内部研修を行っております。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書、運営規定などをもとに、入居者様や、ご家族様に対して、疑問点が無いか確認し、理解・納得して頂けるように説明を心がけております。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	玄関先にて、ご意見箱を設置しております。電話や、ご家族様来所持や、ご本人様より、ご意見を確認しております。今年度も秋田ひまわりの家の新聞を通じてアンケートを実施してサービス利用についての意見をお伺いする予定です。	玄関でご意見箱を確認。家族アンケートは年1回実施している。家族からの意見等に対しては、スタッフミーティングで共有し、サービスの改善、向上に努めている。また、家族へは電話や事業所の近況を伝える新聞を活用して回答している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月行っている、スタッフミーティングや、管理者会議・全体会議を行っております。運営に関して意見を確認する機会を設けております。	管理者は職員からのシフトや掃除、改修などの提案や意見の把握に努め、運営に反映できるよう取り組んでおり、代表者に対して伝える機会もあり、サービスの向上に努めている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会に参加しております。秋田市のグループホームとの情報交換や、勉強会に参加しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の時点では、ご家族様の困っている事、不安などを事前に確認出来るように、事前訪問や、電話確認しています。またご本人様が利用している施設や、ケアマネジャーにも同様に確認をし、初期の関係づくりに努めております。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護状況や、ご本人様との関係性、経済状況をお伺いし、今後の生活をご本人様と一緒に考え信頼関係を築けるように努めております。入居後は電話や写真が付いた手書きのあいさつ文を利用し、生活状況を報告しております。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人様の個々に合った役割をもって頂けるように、食器拭きや、洗濯量などを一緒に行い、共に過ごしております。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や、親戚等の面会や、毎月写真付きの手書きのあいさつ文を送付し、近況報告しております。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	本人から家族の声を聴きたい要望があれば電話対応し、関係性を保てるようにしております。	利用者への面会に制限はなく、家族はいつでも面会できる状況にある。また、利用者の要望に沿い、かかりつけ医での受診も行われている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮して、一緒に出来る家事作業の支援や、入居者様が全員参加出来るようなレクリエーションを考え実施しております。孤立しないように注意しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、情報提供や手続等の支援を気軽に相談してもらいたい事をお伝えしております。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの意見や、普段の生活状況や会話・表情などを見聞きし、意見を取り入れ、暮らしやすい環境を整備し、困難な方でも同様の事を踏まえ、望む暮らしに近づけるよう努力しております。	家族からの聞き取りや日々の観察やコミュニケーション、生活歴等から要望やニーズの把握に努め、スタッフミーティングで情報共有し、ケアプランや個別介護計画書に反映されている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活史への記入をして頂いてもらっています。ご本人様や、ご家族様からも聞き取り、把握できるようにしております。また、介護サービス利用があった方は、その関係者からも生活状況を確認しております。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	介護サービス計画書の原案を用いて、本人・家族と話し合いを行っている。また、連携している医療関係者や職員と随時話し合いを行い、介護サービス計画書に反映して作成しています。	日々の観察やコミュニケーション、生活歴等から要望やニーズの把握に努め、家族の意向も確認し、毎月モニタリングが行われている。その結果をケアプラン及び個別介護計画に反映している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践を記録し、申し送りや、スタッフミーティングで気づきや、ケアの工夫、対応の確認をするようにしております。ご本人様の状態に変化が生じた際には介護計画の見直しを行っております。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との清掃活動に参加しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にご希望を確認し、かかりつけ医との関係を継続されるよう確認しております。現在は協力病院の往診を1名の方以外全員が希望されております。また必要時に歯科医の往診もあります。	必要時に連絡をすることにより、訪問歯科診療が行われている。また、協力病院との関係性も密で毎週訪問看護が訪問し、利用者に変化が見られた際、随時対応できている。希望する医療機関での受診にも対応している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との契約により、週一回の訪問看護と協力し、体調管理を行っております。日々のバイタルサインや、食事量・体重・排泄状態などを確認して、主治医との連携を実施しております。 突然具合の悪くなった方がおりましたら、24時間電話で協力病院の看護と連携し、対応を行っております。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、主治医・看護師・相談室や、ご家族様との電話連絡や、面会を行い、病状について共有して、退院のめどが何時になるかを確認し、早期の退院が出来るようにしております。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的に将来像を話し合い、終末期における対応を確認するようにしております。協力病院の医師へもグループホームの方針を伝え、必要に応じ話し合いを重ね協力して頂けるよう依頼しております。	本人の希望や家族の意向を尊重しながら方向性を確認している。協力病院と連携し、家族の協力を得ながら取り組む体制にある。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が指導のもと、心肺蘇生法や、緊急時の対応を職員全員が受講できるようにしております。また急変時に誰でも、すぐに対応できるように緊急連絡先・生年月日・住所・電話番号・年齢・既往歴等を一つの用紙にまとめて記入しており、すぐに緊急時に持ち出し、救急隊の方に情報提供を出来るような体制を整えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署が立ち合いのもと、避難訓練や夜間想定避難訓練を行っている。同じ敷地内の宿泊サービスと共同で避難体制を確認しています。運営推進会議を通し、避難誘導の仕方などの話し合いをし、マニュアルの更新に努めております。	BCPを作成して訓練を実施している。隣接する学校の協力も得られ運営推進会議で地域との連携を深めている。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の空間が保てるように、ご本人様が一人で過ごしたい時や、共に一緒に過ごす時間を持つ事が出来る様職員同士確認し、配慮しています。排泄時の声掛けでは、羞恥心や周囲の配慮を行い、さり気無く移動できるようにしております。	個別介護計画が作成され、QOLを大切にしたいケアに対する意識が高い。また、利用者のその時々様子から適切な言葉を選択して支援を行っている。	同性介護については、口頭での説明だけではなく、重要説明事項又は契約書に記載することをご検討ください。
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな衣類や、傾向を踏まえ、おしゃれを楽しめるようにしております。2ヶ月に1度の訪問美容もあります。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には旬な季節のものを取り入れ、入居者様と一緒に食器拭きなどを行うようにしています。	施設内で調理して食事を提供している。食材は利用者の咀嚼、嚥下状態に合わせて調理している。また、利用者のADL状態に合わせて、利用者ができることしてもらうことに心がけている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、1日の水分量の確認、また排尿、排便状態・気温を踏まえ水分量が不足していないか注意しています。ご本人様の咀嚼や、嚥下状態に合わせて、食事形態を変え、自力摂取できるように工夫しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操や、食後の歯磨きが出来るように、声掛けや介助を継続的に行っています。定期的ですが、歯科往診にて義歯の調節や、口腔状態について確認することもあります。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄間隔を職員全員で把握し、トイレでの円滑な排泄が出来る様、時間を見て声掛けや、仕草から失敗しない様に努めております。 日中は布パンツや、リハビリパンツを使用し、夜間はオムツを使用。出来るだけオムツの使用を減らし、自立に向けて取り組んでおります。	日々の健康状態は個別記録表記載されており、排泄管理表を基に個別にトイレ誘導している。また、利用者のADL状況にあわせた排泄用品が選択されている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取量の確認、体操や散歩などの運動を取り入れ予防しております。それでも排便が出ない場合は主治医に相談してお薬によって排泄コントロールを行っております。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や意欲、バイタルサイン、予定を確認し、入浴日は決めているが、本人の意思決定により、拒否等あれば、時間をずらす等の対応をし、最低でも週に2回は必ず入浴出来るようにしております。	コミュニケーションやバイタルチェックにより利用者の健康状態を確認し、時間帯など希望に沿えるようにしている。入浴の拒否があった場合は、時間をずらしたり、人を替えて誘導するなど工夫している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動機会をもっと頂けるよう日課を行い、生活リズムを持てるようにしています。 ご本人様の生活ペースや就寝時間を確認し、ゆっくりと眠れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、訪問看護と連携し、薬の効果や副作用について確認しております。誤薬が無いように、複数の職員で服薬内容をチェックし、確実に服薬出来るようにしています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴や、個性を踏まえ、役割として洗濯たたみや、食器拭きなどを行っております。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に施設付近の散歩や、ドライブ等行っている。	併設しているデイサービスの送迎車を利用し外出する機会を設けている。また、日々の生活で利用者の希望があれば散歩を行っている。家族の支援で、年3回お墓参りをしている利用者もいる。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の要望に合わせて、必要な物が有れば預り金で職員が購入している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りが山なので、ホールの窓から季節が感じられます。室温に注意し、各居室・共有部分に温度計を設置し、エアコン等を利用して室内環境を調節しております。	共有スペースは温度管理がされ、心地よく過ごせる環境に配慮されている。キッチンから食事の準備の様子が見え、匂いや音が聞こえ、廊下の壁には手作りの作品が飾られている。利用者は、共有スペースでそれぞれの時間を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファや長椅子を設置し、気の合う入居者様同士が、ゆっくりと談話出来るようにしております。個々の居室は私的な空間として、ゆっくりと過ごせるように、必要以上の訪問に注意しています。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、衣類・食器・家族の写真等のなじみのある物を持って来て頂き、回想出来るようにしております。	ホール兼食堂の窓から季節を感じることが出来る。また、時計、温度、湿度計が設置され、快適な空間になるよう意識している。利用者の居室は馴染みのある家具が置かれ安心できる空間となっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各共有部分のトイレや風呂場等表示し、視覚で確認し、ご自身で移動できるようにしております。また居室やホール、階段、トイレと手すりを設置し、転倒への予防や段差の無いように確認しております。		